



日本語の授業づくり

第4回

日本語教師養成講座での実習授業

日本語の授業って、どんなふうにつくっていくのでしょうか。

アルクが日本語教師のために作った教案・教材のセット「はじめての授業キット」を使って教えている人たちに、

授業準備から反省会まで、失敗も成功も、丸ごと全部、見せていただきました。

今日は、「て形」の導入です。ややこしい活用を、わかりやすく、効果的に教えるには!?

文・写真〇編集部



「て形」の「て」を
わかりやすく教えるには

どんなに授業が上手な先生にも、日本語教師デビューをする前の「修行時代」があっただろう。今日は、まさに修行真っただ中の、渡部恵子さんの実習授業を覗いた。

今日の実習は、「て形」の導入だ。実は、この内容の実習は二回目。今回は、「て形」の変換ルールの説明がわかりにくい」という前回の指摘を

「渡部先生がいい!」と
言われるような先生に

今月の挑戦者
渡部恵子さん

栃木県出身。大学時代、チュニジアの大学で初級日本語を教えた経験あり。現在は、会社員として働きながら、ヒューマンアカデミー銀座校・日本語教師養成総合講座に通う。趣味は、水泳、温泉。



使ったのは……



動詞カード

1週間前

前回行った実習「て形の導入」の反省を生かした「リベンジ実習」の準備。授業改善「Iグループの変換ルール」製作。絵カードの準備など。

学習者役に、ジェスチャーを交えながら「名前を書いてください、書きます」と、「て形ください」の意味を示す。

IIグループ、IIIグループの、て形の変換ルールを説明。

Iグループの、て形の変換ルールを説明。「書きます↓書いて」など、リズムミカルに教えていく。「いちりって」など、て形変換ルールの覚え方も説明。

動詞の絵カードをグループに分けてホワイトボードに貼らせる。それらの絵カードを見ながら「て形」への変換練習。

フラッシュカードに書いた「ます形」から「て形」に変換する練習。

終了

受けての「リベンジ実習」なのだ。学習者役は、同じクラスの日本人二人だ。

まずは、IIIグループの変換からスタート。

聞きながら、「来ます↓来て」と板書し、

発音させる。IIグループも同じく、ス

ムーズに進む。次に、課題のIグルー

プの説明だ。渡部さんは、変換ルール

を一覧にした模造紙を取り出し、ホワ

イトボードに貼った。「買います、待

ちます、取ります」は、「て形」が「つ

て」になることを説明すると、「買

います、買って。待ちます、待って。取

ります、取って」と、リズムミカルに読

み上げ、リピートさせていく。ひと通

り説明した後、「て形」変換ルールの

覚え方を紹介。「ます」の前が「い」「ち

」「り」のときは「つて」です。ですので、

「いちりって」と覚えませす。「んで」「い

て」「いで」「して」も同様に覚え方を

示し、リピートさせた。

絵カードを使うときの注意点

「走ります? 急ぎます?」

次に、ホワイトボードをI・IIに分

け、裏に磁石を貼り付けたたくさんの

動詞の絵カードを、学習者役に渡した。

「どのグループですか? 貼ってください

い」。学習者役は前に出てきて貼った

が、絵だけでは何の動詞かわからず、

「走ります? 急ぎます?」など、戸惑

うことも。事前に何の動詞か確認して

おくことが必要だろう。貼り終えると、

それぞれのカードの動詞を「て形」に

する練習をした。

最後に、文字カードに書いた「ます

形」を見せて「て形」を言わせる練習をし、時間ちょうどで授業を終えた。

実習終了後、課題だったIグループ

の説明について聞いてみた。「前より

もテンポよく説明できたと思います。

でも、絵だけでは何の動詞かわからな

いこともあったので、絵カードの練習

と文字カードの練習を逆にすればよか

ったです」

実習授業中、渡部さんは教案をほと

んど見ておらず、授業の流れがしっか

りと頭に入っていたことが伺える。仕

事との両立が大変な時もあるだろう

が、「通勤電車や仕事の休み時間に、

頭の中でシミュレーションを繰り返し

ています」と言う渡部さん。どのよう

な日本語教師になるのか、今後の活躍

が楽しみだ。

鈴木英子先生の ひと言アドバイス



数年ぶりに復帰した同僚が、「最初のうちは学習者をしっかりと見る余裕がなかった」と話していましたが、経験のある教師でも、徐々に教壇に立つと、なかなか思うようにはいかないようです。今回の渡部さんは、リベンジ実習ということで、教材もよく準備し、Iグループの教え方についても工夫して臨んでいました。ただ、変換の説明に集中するあまり、肝心の練習が少なくなってしまうかもしれません。形を覚えるためには、まず、絵カードや文字カードで口頭練習をしっかりと繰り返し、音に慣れることが大切です。

教えるはじめたばかりのころは、教案中心の指導になりがちで、学習者の様子が見えていない場合もあります。積極的に授業に参加しているか、理解できているか……など、学習者をいつもよく見るように心がけていきましょう。授業の改善を目指し、日々悩み続けることにより、教師として成長し、授業力も磨かれていくのだと思います。頑張ってくださいね。

profile 「はじめての授業キット」の著者の一人。財宮城県国際交流協会が日本語講座、ボランティア日本語教師養成のための各種講座を担当している。

はじめての 授業キット



●授業づくりのアイデア満載
「日本語教師のための授業レシピ」
<http://jpn.alc.co.jp/teacher/recipe/>

●「はじめての授業キット」をもっと詳しく
<http://shop.alc.co.jp/cnt/other/jpnkit/>